

広島県呉市 御手洗地区 重要伝統的建造物群保存地区



瀬戸内海の中心部、大崎下島に御手洗という港町があります。

江戸時代から明治時代にかけて、風待ち・潮待ちの港町として栄えました。大小の商家、茶屋、船宿、神社、寺院など往時の面影をとどめる建物や史跡が数多く残されており、平成6年、重要伝統的建造物群保存地区として国から選定されました。その町並みを散策すると、まるでタイムスリップしたような気分になります。

御手洗は、数々の歴史の舞台となっています。長州軍と芸州軍が合流し、倒幕のための御手洗条約を結んだ金子邸や、伊能忠敬が御手洗・大長を測量した時に宿泊した柴屋住宅などの建物が残っています。

晴れた日には、瀬戸内の島々を見渡すことができます。どこまでも続く青い海と空、目立つものはないけれど、どこか懐かしい雰囲気とゆったりとした時間の流れが訪れた人の心をほぐしてくれる、そんな魅力のある島です。



1937（昭和12）年に開館し、劇場や映画館として長い間人々に親しまれてきました。長らく閉館していましたが、2002（平成14）年に往時の姿へと復元。当時の映画ポスターなどが飾られるレトロな雰囲気の中、散策の小休憩をしていただけます。

大長みかん・大長レモン



「耕して天に至る」といわれたほど、大崎下島の豊町には段々畑が広がり、秋にはみかんがたわわに実ります。収穫期には、島一面が黄金色に染まります。温暖な気候、水はけの良い段々畑、日当たりの良さに加えて、第二の太陽光ともいえる海からの照り返しがあるという好条件に恵まれた大長みかんは、コクがあり甘くておいしいと評判です。

また、大長は国産レモンの発祥地、栽培の歴史は100年以上にわたります。年間を通じて気温の変化が少なく雨量の少ない気候を好むレモンも、温暖小雨の大崎下島の環境が栽培に適しているといわれています。

収穫期には、島の至るところで果実を安く購入できます。獲れたての香りは生産地ならではです。また、名産の柑橘類を使ったお土産は一年を通じて販売されています。さっぱりとした爽やかな風味が人気で、リピーターも多くいます。



1755（宝暦5）年、天神社として創建され、1871年（明治4年）広島藩士、船越寿左衛門の寄進により新社殿が造営され、現在の天満宮になりました。学問の神として知られる菅原道真公を祀っています。

御手洗という地名の由来にまつわる井戸が、この神社にあります。道真公が九州太宰府に流される途中、風待ち・潮待ちのため島に上陸し、持っていた笏で地面を掘ったところ、こんこんと清水が湧き出たといわれます。その水で手を洗い、口をすすいだという伝説から、この地が御手洗と呼ばれることになったといわれています。

境内には、「菅公の井戸」と呼ばれる井戸が残っており、その井戸で手を洗うと字が綺麗になるという伝説もあります。また井戸の横、本殿の下には石のトンネルがあり、「可能門」と呼ばれています。この門をくぐる時にひとつ願い事をするとその願いが叶うといわれています。



広島県呉市豊町 御手洗地区
広島呉道路（クリアライン）
呉ICから約1時間15分